



【2025 年最新】改正トラック新法のポイントと実務への影響を分かりやすく解説！（トラック事業適正化関連法）【前編】

【記事の要点3つ】

- ✓ 改正トラック新法では、無許可の白ナンバートラック利用(白トラ)禁止、荷主にも責任を課すなど「見極める力」が求められる。また、多重下請けは原則 2 次受けまで、委託構造の記録(実運送体制管理簿)が全事業者の義務に。
- ✓ 単なる法令順守ではなく、再委託理由・運賃構造・実運送体制などを“説明できる形”で整備し、荷主や行政にいつでも提示できることが、これからのスタンダードになる。
- ✓ 法改正は現場に厳しさももたらすが、「感覚」から「データ・根拠」への転換が生き残りのカギ。現場の声に耳を傾けつつ、制度対応・記録整備を“今”から始めることが大切。

まず、無許可業者(白ナンバー車)を利用した場合、今後は荷主にも責任が及び、「知らなかった」では済まされない時代になりました。今後は正規の運送事業者かどうかを確認・記録する仕組みづくり、社内教育の徹底、再委託時のチェックリスト作成が必須です。さらに、委託構造の透明化のため、「多重下請け」は原則 2 次受けまでとし、実運送体制管理簿の作成・保存が義務化されます。これにより、再委託がなぜ発生したのか、委託経路や理由を明確にし、行政や取引先からの確認にも対応できる体制が求められます。

このような記録・見える化対応は「感覚」や「昔ながら」から脱却し、データや根拠で説明できる信頼される物流会社づくりの第一歩です。

今後、制度の詳細や罰則強化が段階的に進む中で、現場や地域によっては課題も残るものの、「備えた会社」が選ばれる時代が本格的に始まります。日々の実務に落とし込み、今から少しずつ準備を進めることが、これからの競争力となると考えられます。

元の記事を読む



株式会社タイガー
東京都千代田区神田猿樂町 2-1-14 A&X ビル 2F
<https://www.tiger-inc.co.jp/>
03-5283-7232

物流ソリューションエキスパート

